

横浜市インフルエンザ流行情報 8号

横浜市健康福祉局健康安全課
横浜市衛生研究所

- 第7週(2月9日～2月15日)は、定点あたり報告数 15.47 と、前週に比べ減少しました。
- 学校等における集団かぜは2009年2月14日までに施設閉鎖 11 施設(11 施設)、学年閉鎖 13 施設(14 学年)、学級閉鎖 89 施設(118 学級)の報告がありました。
- 今シーズンに入り、病原体定点医療機関の検体からインフルエンザウイルスが118件分離・検出され、その内訳は、AH1(ソ連型)62、AH3(香港型)33、B型23でした。また、集団かぜの検体からインフルエンザウイルスが34件分離・検出され、その内訳は、AH1(ソ連型)25、AH3(香港型)2、B型7でした。病原体定点医療機関、集団かぜ共に、B型の割合が増えてきています。
- AH1(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った51件すべてにオセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った19件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められました。

1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

(1) 患者定点医療機関からの患者報告状況

図1 横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数

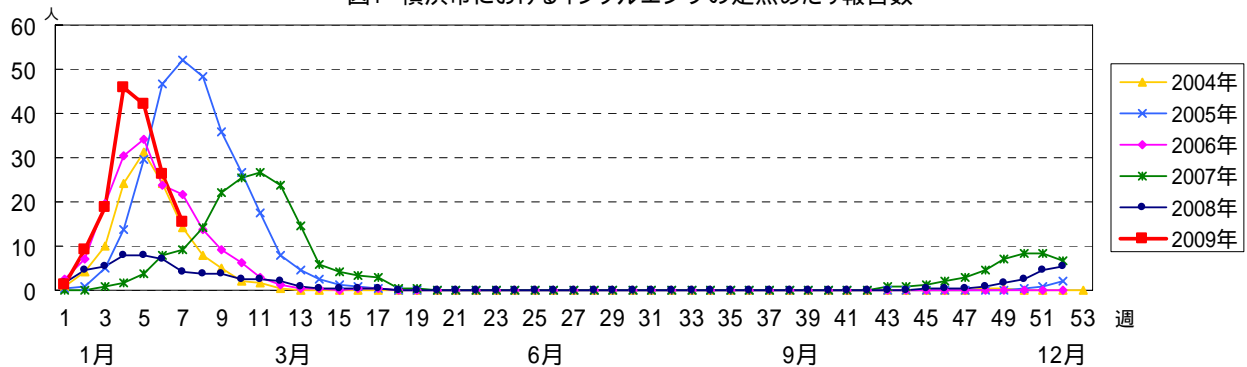
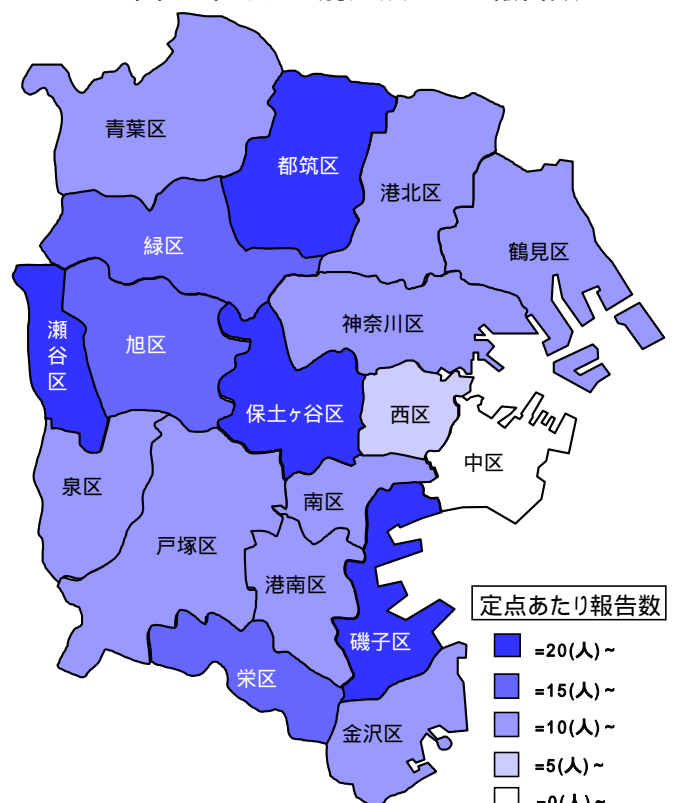


図2 第7週 区別定点あたり報告数

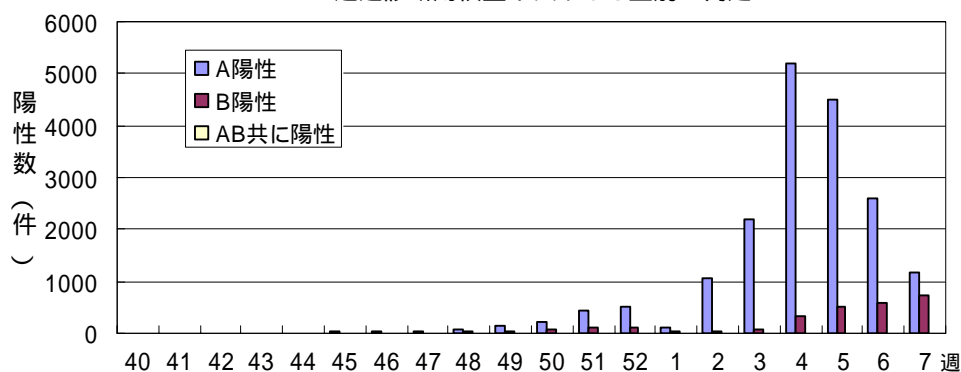


横浜市では、過去 6 年間で最も早かった昨シーズンに次いで早く、2008年第49週(12/1～7)に流行の目やすとなる「1.0」を超え、2009年第3週(1/12～18)横浜市全域が注意報レベルの流行となり、第4週(1/19～25)にはさらに増加し、警報レベルの流行となりました。第7週(2月9日～2月15日)の定点あたり報告数は15.47(前週の0.6倍)と減少しました(図1)。

区別では、瀬谷(32.43)が警報レベルの流行となっており、次いで、都筑(25.63)、保土ヶ谷(22.00)、磯子(20.83)、緑(18.17)、栄(15.20)、旭(15.11)の順で多くなっています(図2)。

また、横浜市内の患者定点医療機関のご協力でご報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定(患者発生報告書に検査結果を記載いただいものについての集計)をグラフに示しました。2009年第7週では、A型1184件、B型734件、AB型共に陽性7件の報告があり、B型の割合が増えてきています(図3)。

図3 横浜市内の患者定点医療機関における迅速診断用検査キットによる型別の判定



全国でも、インフルエンザ報告数は第2週に注意報レベルの流行となり、第4週には大幅に増加し、警報レベルの流行となりました。第7週は定点当たり報告数16.75と前週に比べて減少しています(表1)。

都道府県別では、香川県(31.3)が警報レベルの流行となっており、次いで、新潟県(27.0)、兵庫県(25.7)、富山県(22.9)、長野県(22.6)、愛媛県(22.2)、大阪府(21.7)、

徳島県(21.5)、高知県(21.4)、福井県(20.8)の順となっています。

表1 インフルエンザ定点あたり報告数の推移

定点あたり患者報告数	第3週 (1/12-1/18)	第4週 (1/19-1/25)	第5週 (1/26-2/1)	第6週 (2/2-2/8)	第7週 (2/9-2/15)
全国	20.89	37.48	35.70	24.71	16.75
東京都	16.56	31.94	30.01	17.33	10.55
神奈川県(全県)	20.84	47.08	45.60	28.42	16.11
横浜市	18.74	45.98	42.18	26.09	15.47
川崎市	19.89	39.60	41.60	25.57	14.25
県域(横浜・川崎を除く)	23.33	50.96	50.53	31.78	17.45

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜについて

市内の幼稚園、学校等からの集団かぜ等は、過去4シーズンと比べて、最も早く2008年10月20日に初発の報告がありました。2009年1月19日以降急激に増えて、2月14日までに施設閉鎖11施設(11施設)、学年閉鎖13施設(14学年)、学級閉鎖89施設(118学級)の報告がありました(表2)。

区別では、栄区以外の17区から報告があり、青葉(15施設)、都筑(13施設)、旭(11施設)、保土ヶ谷(10施設)、鶴見(9施設)、緑(9施設)、泉(9施設)、神奈川(8施設)、磯子(6施設)、中(4施設)、港南(4施設)、金沢(4施設)、港北(4施設)、瀬谷(2施設)、西(1施設)、南(1施設)、戸塚(1施設)となっています。(施設数は延べ数です。)

表2 集団かぜ等による施設閉鎖

区分	閉鎖施設数			閉鎖延べ			閉鎖対象者		
	施設	学年	学級	施設	学年	学級	在籍者	患者	欠席者
幼稚園	7	1	23	7	1	34	2255	801	776
小学校	2	7	51	2	8	68	3586	1562	1091
中学校	1	4	8	1	4	8	1373	333	236
その他	1	1	1	1	1	1	661	173	166
計	11	13	83	11	14	111	7875	2869	2269

全国状況については、<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/infreport/report.html> をご覧ください。

横浜市内の最新の流行情報については、

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/surveillance/report.html> をご覧ください。

インフルエンザ定点

インフルエンザの流行状況を把握するために、横浜市では小児科定点88か所を含む145か所(全国約5000か所)の医療機関を「インフルエンザ定点」と指定しています。

2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況について

2008年第46週以降の病原体定点の検体からのインフルエンザウイルスの分離・検出数は118件あり、その内訳は、AH1(ソ連型)が62(52.5%)、AH3(香港型)が33(28.0%)、B型が23(19.5%)となっており、どのサブタイプ(亜型)のウイルスも継続的に分離されていますので、耐性株の関係もあり、今後の動向に注意する必要があります。

集団かぜの検体に関しては、ウイルスの分離・検出数は34件あり、AH1(ソ連型)が25、AH3(香港型)が2、B型が7でした。病原体定点医療機関、集団かぜ共に、B型の割合が増えてきています。

AH1(ソ連型)分離株は、遺伝子解析を行った51件すべてにオセルタミビル(商品名:タミフル)耐性を示唆する遺伝子変異が認められました(オセルタミビル処方前に検体採取)が、ザナミビル(商品名:リレンザ)、アマンタジン(商品名:シンメトレル等)耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

また、AH3(香港型)分離株は、遺伝子解析を行った19件すべてにアマンタジン耐性を示唆する遺伝子変異が認められましたが、オセルタミビル耐性を示唆する遺伝子変異が認められませんでした。

B型分離株に対して薬剤耐性に関する遺伝子解析は行っていません。

亜型	調査方法	分離ウイルス株数	薬剤耐性検査数	オセルタミビル耐性遺伝子検出数	アマンタジン耐性遺伝子検出数
AH1(ソ連型)	病原体定点	46	37	37(100%)	0
	集団かぜ	14	14	14(100%)	0
AH3(香港型)	病原体定点	20	18	0(0%)	18(100%)
	集団かぜ	1	1	0(0%)	1(100%)

(1) 今シーズンの病原体定点の検体からのインフルエンザウイルス分離・検出状況

月集計および週数	インフルエンザ検出状況					
	A型				B型	
	H1(ソ連型)		H3(香港型)		分離	PCR*
	分離	PCR*	分離	PCR*		
2008年第47週～第52週(11/17～12/28)	13	-	8**	9	7**	-
2009年第1週～第5週(12/29～2/1)	31	10	12	2	5	-
第6週(2/2～2/8)	1	3	-	-	4	-
第7週(2/9～2/15)	-	3	-	2	7***	-
第8週(2/16～2/22)	1	-	-	-	-	-

*:ウイルス分離はされていませんが、遺伝子検査で検出されたものを計上します。

**:うち1件は、1人の検体からAH3(香港型)とB型の両方が分離されました。

***:うち1件は、1人の検体からAH1(ソ連型)が遺伝子検査で検出され、B型が分離されました。

(2) 今シーズンの学校等における集団かぜからのウイルス分離・検出状況

検体採取週	区数	施設数	検体数	インフルエンザウイルス検出数					
				分離			PCR		
				AH1	AH3	B	AH1	AH3	B
2008年第49週(12/1～12/7)	1	1 幼稚園	3				3		
2008年第51週(12/15～12/21)	1	1 中学校	5			4			1
2009年第4週(1/19～1/25)	9	2 幼稚園	8	7			4		
		5 小学校	19	10		2	11		
		1 中学校	1		1			1	
		1 高等学校	1						1
2009年第5週(1/26～2/1)	3	2 小学校	7	4	1		3		
		1 中学校	1						
2009年第6週(2/2～2/8)	1	1 小学校	1				1		
2009年第7週(2/9～2/15)	1	1 小学校	5				1		

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、2009年2月24日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離・検出状況は、AH1(ソ連型)1625例、AH3(香港型)916例、B型342例です。

詳しくは、<https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data1j.pdf> をご覧ください。

(参考)

厚生労働省:インフルエンザ Q&A

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou01/07qa.html>

国立感染症情報センター:インフルエンザ Q&A(一般向け)

<http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/fluQA/QAgen01.html>

横浜市健康福祉局 健康安全課(TEL:671-2463)
横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課(TEL:754-9816)
検査研究課ウイルス担当(TEL:754-9804)